

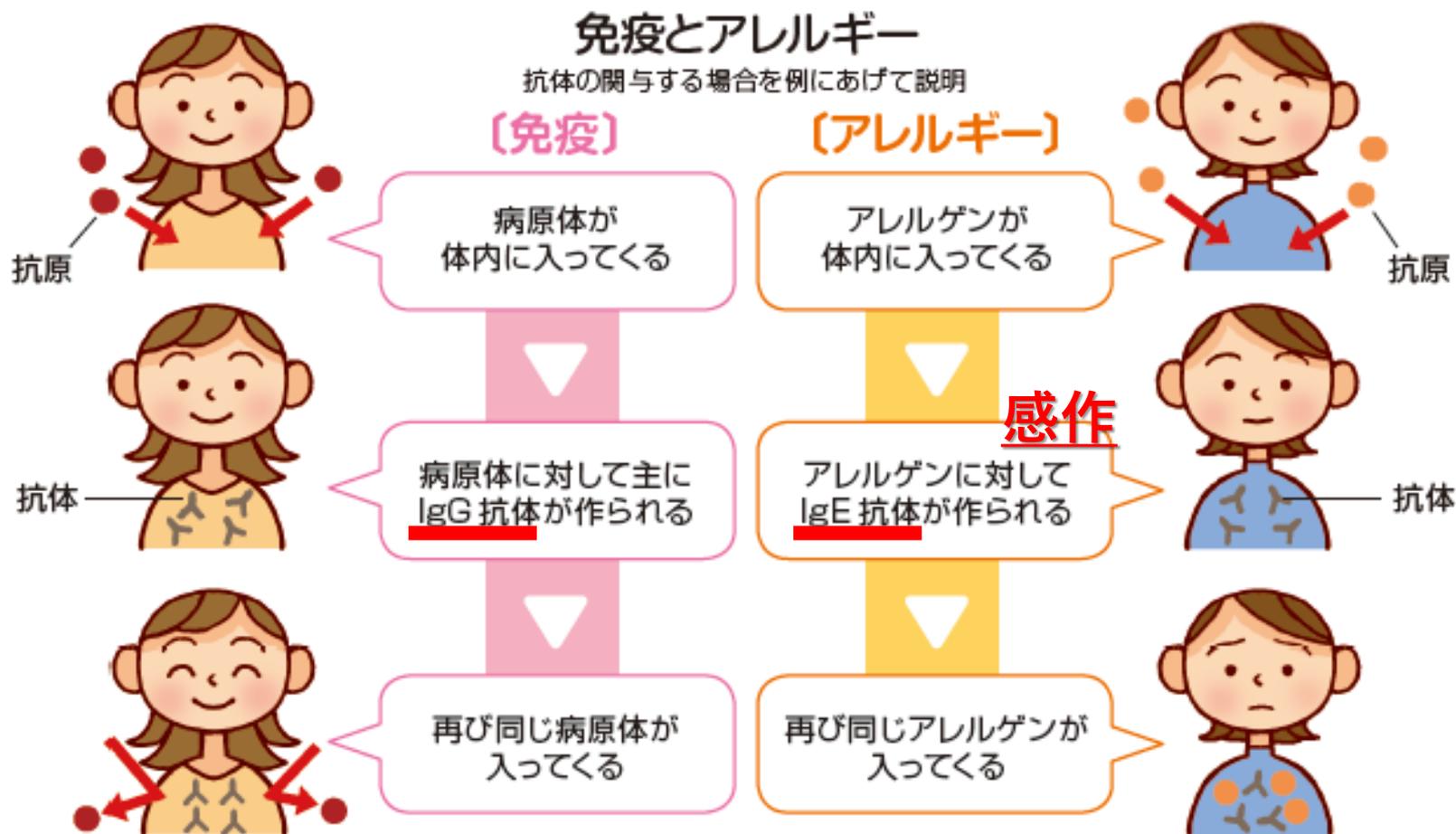
# 食物アレルギーの基礎知識

愛媛大学大学院医学系研究科  
地域小児・周産期学講座  
桑原 優

# アレルギーとは

- ・「免疫学的な機序によって体に症状が引き起こされる」
- ・私たちの体には「免疫」という病気を引き起こす異物から体を守る仕組みがある。この仕組みが、ある特定の異物に対して免疫が過剰に反応して、体に症状が引き起こされることを「アレルギー反応」といいます。

# アレルギーとは



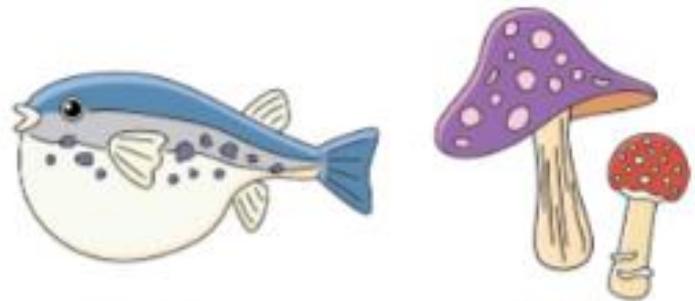
# アレルギーとは



卵の成分に対して  
免疫反応が起こる患者さんに  
症状が引き起こされる



アレルギー



フグ

キノコ

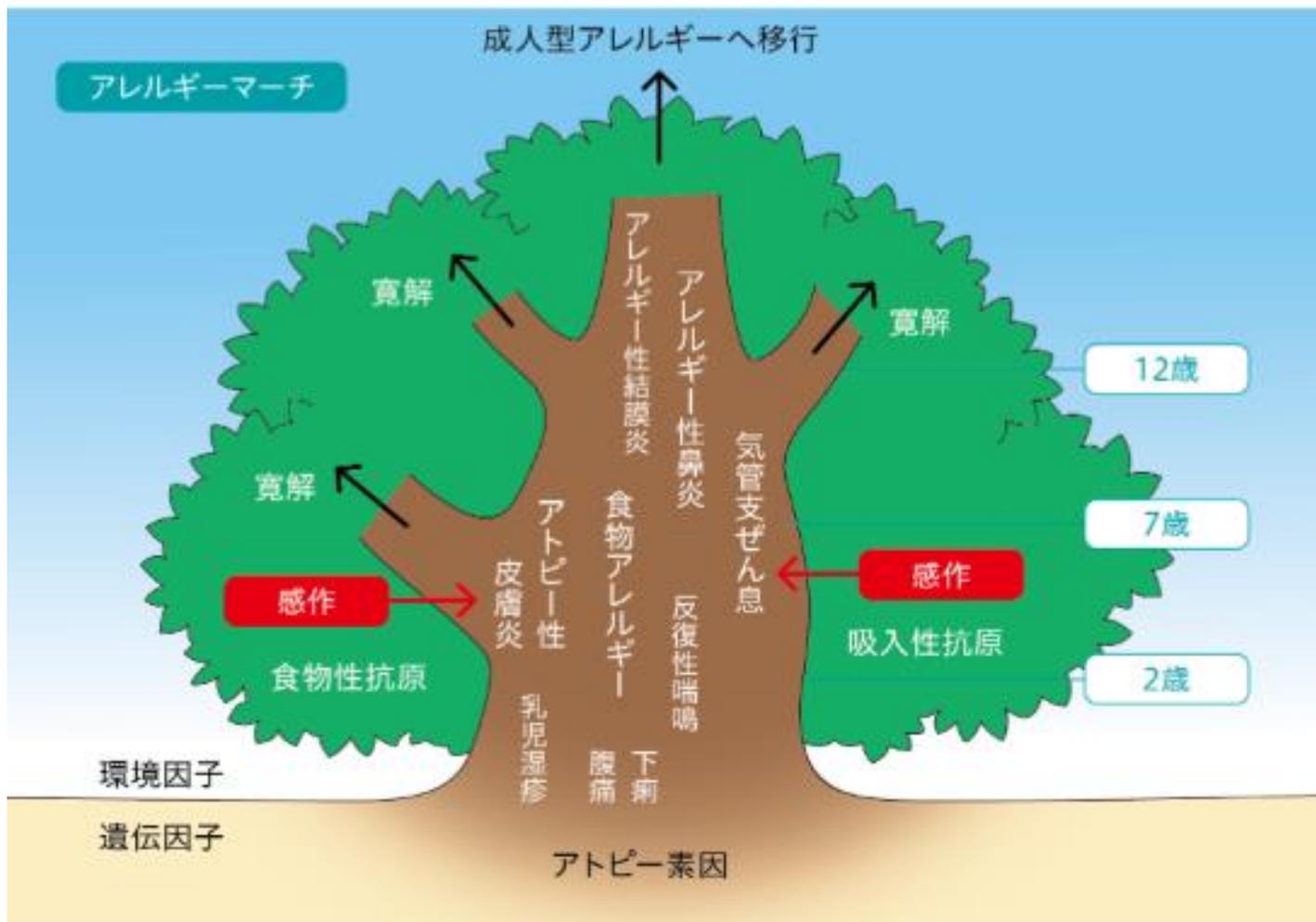


誤って毒を食べたすべての人に  
直接症状が引き起こされる  
(免疫は関与しない)



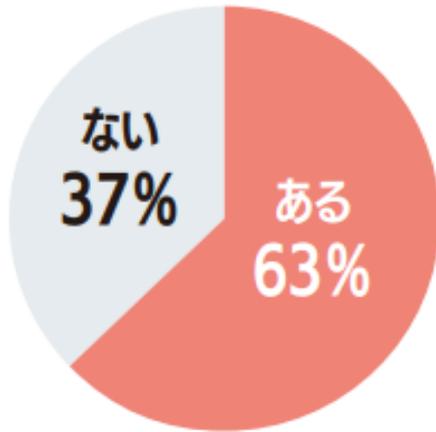
アレルギーではない

# アレルギーマーチ



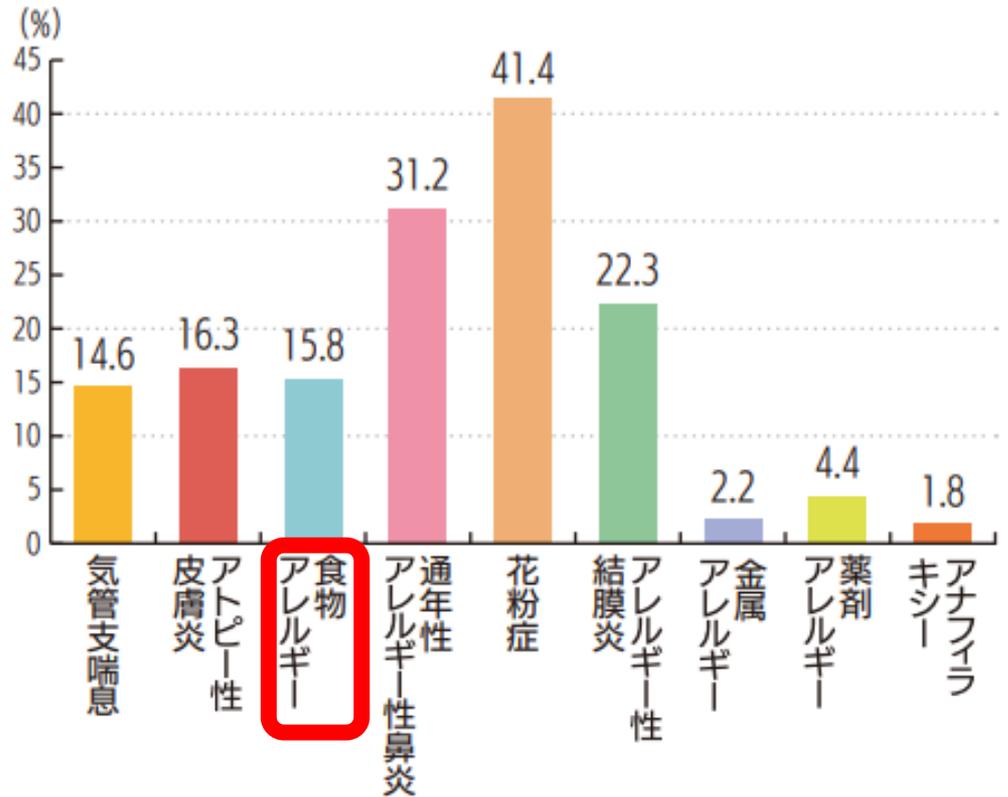
※本図はアレルギー疾患の発症・寛解を図示したもので「再発」については示していない。(馬場 實による原図を改編:2010)

# アレルギー疾患の疫学

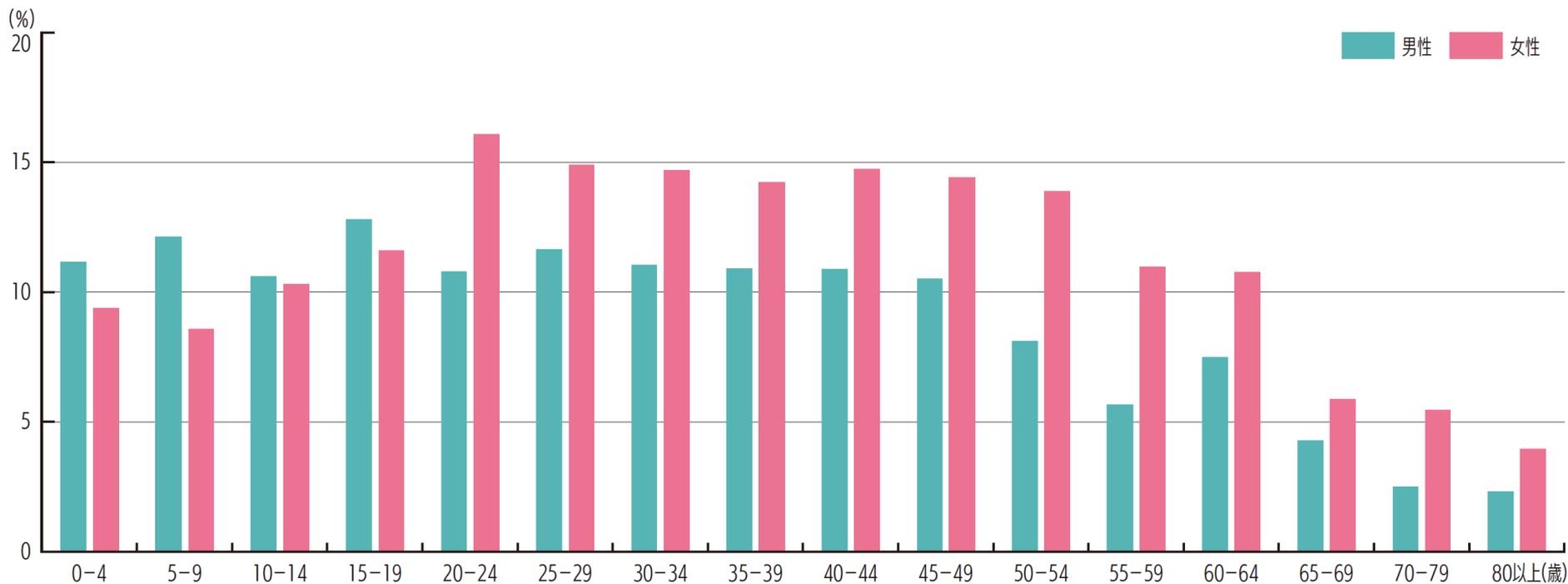


## アレルギー疾患がある割合

いずれかのアレルギー疾患について、「医師に診断されている」もしくは「診断されていないがそう思う」と回答した割合



# 食物アレルギーの有病率



# 食物アレルギー

食物アレルギーとは、「食物によって引き起こされる抗原特異的な免疫学的機序を介して生体にとって不利益な症状が惹起される現象」と定義される。

感作および症状誘発において食物アレルゲンが生体に侵入する経路は問わず、経口（摂取）、経皮（接触）、経気道（吸入）、経粘膜、経胎盤あるいは注射などが考えられる。

# 食物アレルギー

食べる、触る、吸い込むなどで  
体に入ってきた食物に対して、  
体を守るはずの免疫が、  
過剰に反応することで起きる  
有害な症状



保育所における  
アレルギー対応ガイドライン  
(2019年改訂版)  
研修テキスト

## 保育所におけるアレルギー対応の基本原則

- 関係者の共通理解の下で、組織的な対応をしましょう。  
(マニュアルの作成や、記録に基づく取り組みなど)
- 医師の診断指示に基づき、保護者と連携して適切な対応をしましょう。  
＜生活管理指導表に基づく対応が必須＞
- 地域の専門的な支援や関係機関との連携を行いましょう。
- 食物アレルギー対応においては安全・安心の確保を優先しましょう。  
(基本的に家庭で食べたことのない食物を保育所では提供しない)

# 生活管理指導表の活用

アレルギー疾患を有する子どもを把握する



生活管理指導表を保護者へ配付する



生活管理指導表に医師が記入する



保護者と面談する



保育所内の職員で共通理解する



対応を見直す



生活管理指導表は  
医師・保護者・保育所の  
重要なコミュニケーションツール



## 食事の提供の原則 ( 除去食の考え方等 )

- 食物アレルギー対応にあたっては、給食を提供することを前提として、安全・安心な生活が送れるよう環境・体制を整備
- 生活管理指導表を活用した組織的な対応
- 安全を最優先した完全除去による対応
- 保育所で「初めて食べる」食物がないように、保護者と連携
- 保育所で初めて発症する可能性も踏まえた体制整備



# 食物アレルギー

## 病型・治療

病型・治療	
アナフィラキシー（あり・なし） 食物アレルギー（あり・なし）	A. 食物アレルギー病型 1. 食物アレルギーの関与する乳児アトピー性皮膚炎 2. 即時型 3. その他（新生児・乳児消化管アレルギー・口腔アレルギー症候群・食物依存性運動誘発アナフィラキシー・その他： ）
	B. アナフィラキシー病型 1. 食物（原因： ） 2. その他（医薬品・食物依存性運動誘発アナフィラキシー・ラテックスアレルギー・昆虫・動物のフケや毛）
	C. 原因食品・除去根拠 該当する食品の番号に○をし、かつ《 》内に除去根拠を記載 1. 鶏卵 《 》 2. 牛乳・乳製品 《 》 3. 小麦 《 》 4. ソバ 《 》 5. ピーナッツ 《 》 6. 大豆 《 》 7. ゴマ 《 》 8. ナッツ類* 《 》 （すべて・クルミ・カシューナッツ・アーモンド・ ） 9. 甲殻類* 《 》 （すべて・エビ・カニ・ ） 10. 軟体類・貝類* 《 》 （すべて・イカ・タコ・ホタテ・アサリ・ ） 11. 魚卵* 《 》 （すべて・イクラ・タラコ・ ） 12. 魚類* 《 》 （すべて・サバ・サケ・ ） 13. 肉類* 《 》 （鶏肉・牛肉・豚肉・ ） 14. 果物類* 《 》 （キウイ・バナナ・ ） 15. その他 （ ） 「*は( )の中の該当する項目に○をするか具体的に記載すること」
	【除去根拠】該当するものを《 》内に番号を記載 ①明らかな症状の既往 ②食物負荷試験陽性 ③IgE抗体等検査結果陽性（※） ④未摂取
D. 緊急時に備えた処方薬 1. 内服薬（抗ヒスタミン薬、ステロイド薬） 2. アドレナリン自己注射薬「エピペン®」 3. その他（ ）	

# 食物アレルギー

## ■食物アレルギーの関与する 乳児アトピー性皮膚炎

---

- ✓ 乳児アトピー性皮膚炎に合併して認められる食物アレルギー
- ✓ 食物に対するIgE抗体の感作が先行し、食物が湿疹の増悪に関与している場合
- ✓ 即時型症状に移行することもある

※ただし、すべての乳児アトピー性皮膚炎に食物が関与しているわけではない

# アトピー性皮膚炎

## ■食物アレルギーとの関係

- ✓ 食物アレルギーの「経皮感作」が多いことが判明
- ✓ 乾燥や湿疹などがある場合は皮膚のバリア機能が低下しており、そこにアレルギーが付着すると体内に侵入し、アレルギー反応を起こす体質になる可能性あり
- ✓ **乳児で比較的重いアトピー性皮膚炎がある場合には、食物アレルギーを持っていることが多い**
- ✓ **経皮感作により新たなアレルギーになることを防ぐためにも、アトピー性皮膚炎等の皮膚疾患の治療、肌の保湿などのスキンケアを行い、きれいな肌を保つことが大切**

# 食物アレルギー

## 即時型症状

---

- ✓ いわゆる典型的な食物アレルギー
- ✓ 即時型反応による症状を中心とし、時にアナフィラキシーに至る。

# 食物アレルギー

## ↳ その他

---

### ① 新生児・乳児消化管アレルギー

- ✓ 新生児期・乳児期早期にミルク等に対して血便、嘔吐、下痢などの症状が現れる。
- ✓ 最近では、卵黄に対して発症する児が増加している。

※小児の消化器分野や国際的な概念も鑑みて、新たに「新生児・乳児食物蛋白誘発胃腸症」と命名し、再定義された

# 食物アレルギー

## ↳ その他

---

### ② 口腔アレルギー症候群

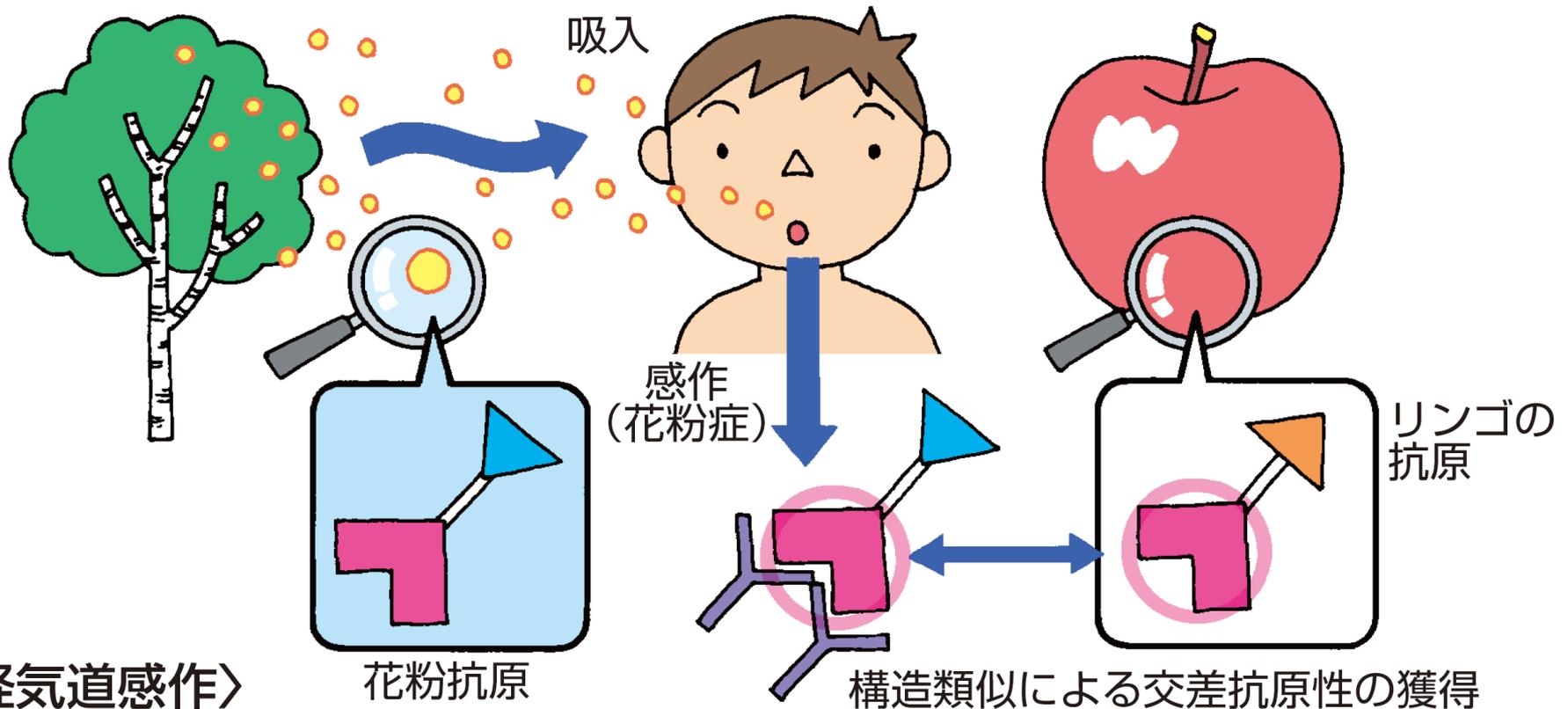
- ✓ 口唇・口腔・咽頭粘膜を中心として誘発される、IgE抗体を介した即時型アレルギー症状
- ✓ 口腔・咽頭粘膜から局所的に吸収されたアレルゲンによって誘発される。
- ✓ 食物摂取直後から始まり、口唇・口腔・咽頭のかゆみ、イガイガ、血管浮腫などをきたす。

※花粉-食物アレルギー症候群に相当する場合が多い

# 食物アレルギー

## その他

### ② 口腔アレルギー症候群

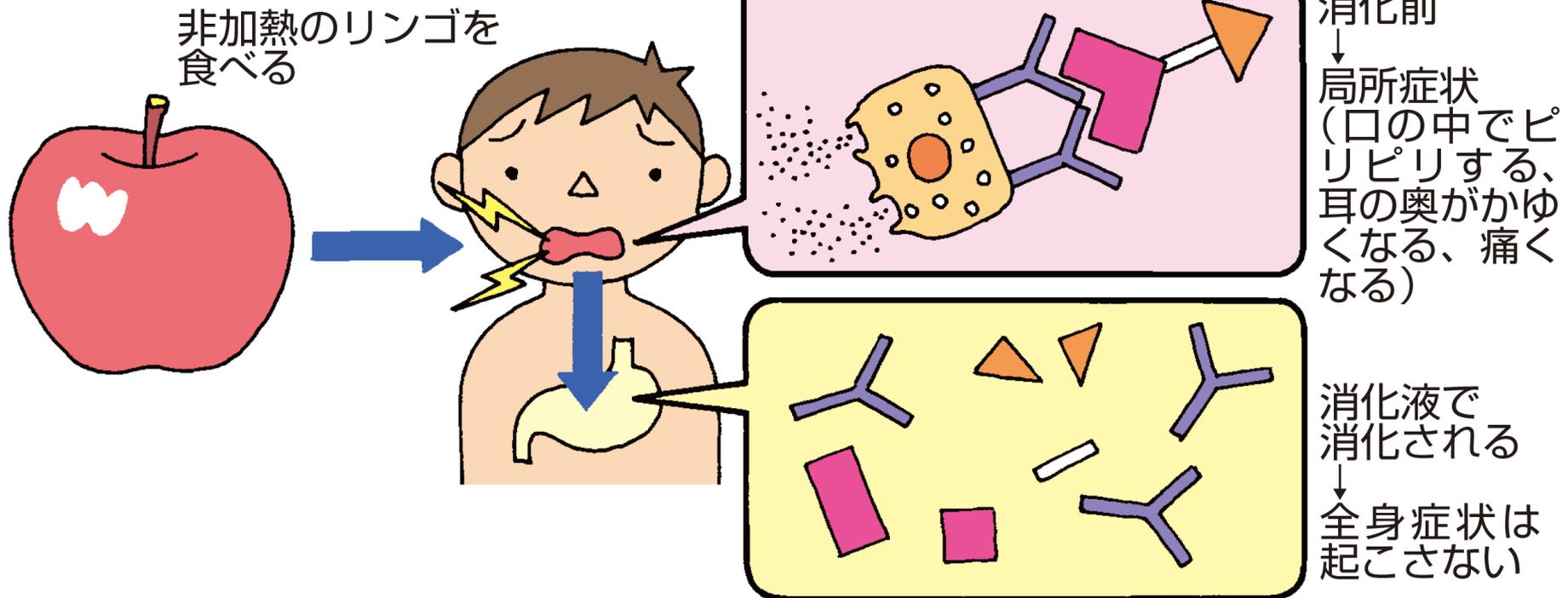


# 食物アレルギー

## その他

### ② 口腔アレルギー症候群

〈発症〉



# 食物アレルギー

## ↳ その他

---

### ③ 食物依存性運動誘発アナフィラキシー

- ✓ 原因食物の摂取単独または運動負荷単独では症状が出現せず、原因食物摂取後の運動負荷によってアナフィラキシーが誘発される病態
- ✓ 原因食物は、小麦、甲殻類が多い。
- ✓ 食後2時間以内の運動による発症が大部分であるが、食後最大4時間を経過して発症したとする報告もある。

# 食物アレルギー

## 即時型症状

---

- ✓ いわゆる典型的な食物アレルギー
- ✓ 即時型反応による症状を中心とし、時にアナフィラキシーに至る。

# 食物アレルギー

## 即時型症状

### 1. 皮膚の症状

かゆみ、じんま疹、赤み（紅斑）

### 2. 目の症状

結膜の充血、かゆみ、まぶたの腫れ

### 3. 口・のどの症状

口・のどの中の違和感、イガイガ感、唇・舌の腫れ

### 4. 鼻の症状

くしゃみ、鼻汁、鼻づまり



### 5. 呼吸器の症状 ★

声がかすれる（嗄声）、犬が吠えるような咳、のどがしめ付けられる感じ（喉頭絞扼感）、咳、息が苦しい（呼吸困難）、ゼーゼー・ヒューヒューする（ぜん鳴）、低酸素血症

### 6. 消化器の症状 ★

腹痛、吐き気、嘔吐、下痢

### 7. 循環器の症状 ★

脈が速い（頻脈）、脈が触れにくい・脈が不規則、手足が冷たい、唇や爪が青白い（チアノーゼ）、血圧低下

### 8. 神経の症状 ★

元気がない、ぐったり、意識もうろう、不機嫌、尿や便を漏らす（失禁）

# 食物アレルギー

## 即時型症状

---

紅潮



蕁麻疹



眼瞼浮腫



# 食物アレルギーによって起こる症状 ②

## ● 食物アレルギーの重症度

重症度	<b>皮膚</b> 	<b>消化器</b> 	<b>呼吸器</b> 	<b>全身</b> 
<b>軽症</b> 右記の1つでもあてはまる	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 部分的な赤み、じんましん</li> <li>● 軽いかゆみ</li> <li>● くちびる・まぶたの腫れ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 口やのどのかゆみ・違和感</li> <li>● 弱い腹痛</li> <li>● 吐き気</li> <li>● 嘔吐・下痢（1回）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 鼻水、くしゃみ</li> </ul>	
<b>中等症</b> 右記の1つでもあてはまる	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 全身性の赤み、じんましん</li> <li>● 強いかゆみ</li> <li>● 顔全体の腫れ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● のどの痛み</li> <li>● 強い腹痛</li> <li>● 嘔吐・下痢（2回）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 咳を繰り返す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 顔色が悪い</li> </ul>
<b>重症</b> 右記の1つでもあてはまる		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 持続する強い（がまんできない）腹痛</li> <li>● 繰り返し吐き続ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● のどや胸が締め付けられる</li> <li>● 声がかすれる</li> <li>● 犬が吠えるような咳</li> <li>● 持続する強い咳き込み</li> <li>● ゼーゼーする呼吸</li> <li>● 息がしにくい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 唇や爪が青白い</li> <li>● 脈が触れにくい・不規則</li> <li>● 意識がもうろうとしている</li> <li>● ぐったりしている</li> <li>● 尿や便を漏らす</li> </ul>

# アナフィラキシー

---

## 【定義】

アナフィラキシーは重篤な全身性の過敏反応であり、通常は急速に発現し、死に至ることもある。

重症のアナフィラキシーは、致死的になり得る気道・呼吸・循環器症状により特徴づけられるが、典型的な皮膚症状や循環性ショックを伴わない場合もある。

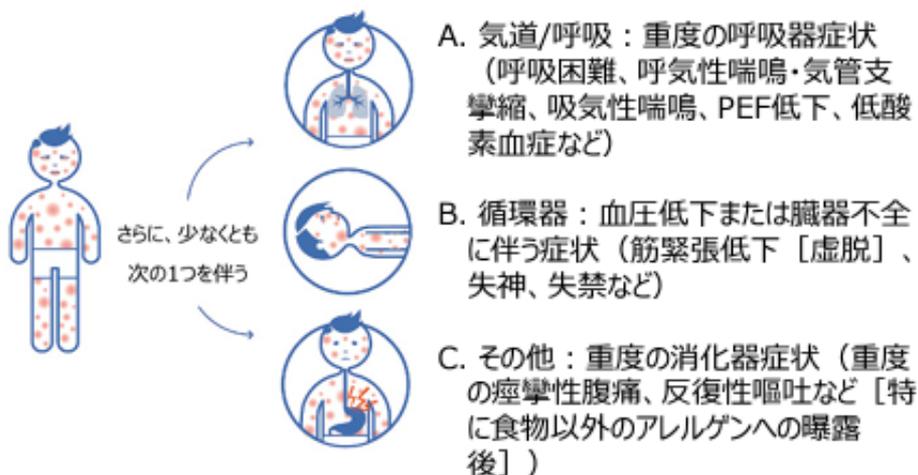
# アナフィラキシー

## ■ 診断基準

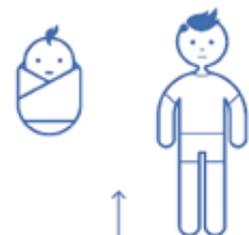
以下の2つの基準のいずれかを満たす場合、アナフィラキシーである可能性が非常に高い。

1. 皮膚、粘膜、またはその両方の症状（全身性の蕁麻疹、癢痒または紅潮、口唇・舌・口蓋垂の腫脹など）が急速に（数分～数時間で）発症した場合。

2. 典型的な皮膚症状を伴わなくても、当該患者にとって既知のアレルゲンまたはアレルゲンの可能性がきわめて高いものに曝露された後、**血圧低下\***または**気管支攣縮**または**喉頭症状#**が急速に（数分～数時間で）発症した場合。



乳幼児・小児：  
収縮期血圧が低い（年齢別の値との比較）、または30%を超える収縮期血圧の低下\*



成人：  
収縮期血圧が90mmHg未満、または本人のベースライン値に比べて30%を超える収縮期血圧の低下

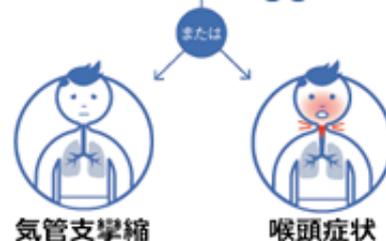
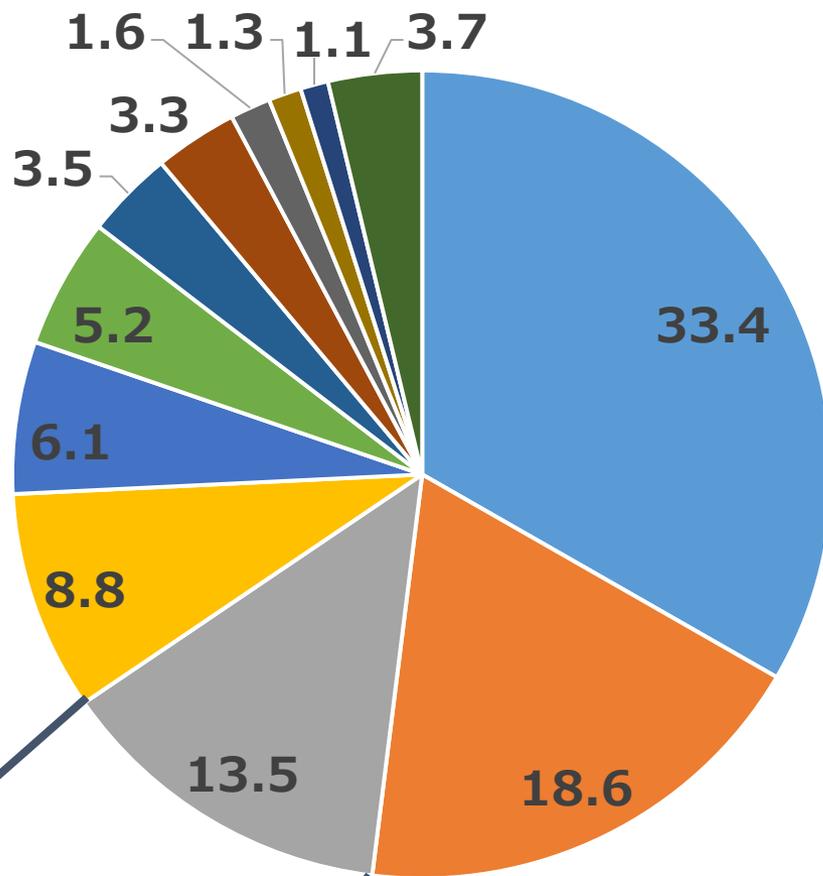


図1

\* 血圧低下は、本人のベースライン値に比べて30%を超える収縮期血圧の低下がみられる場合、または以下の場合と定義する。  
i 乳児および10歳以下の小児：収縮期血圧が  $(70 + [2 \times \text{年齢(歳)}])$  mmHg未満  
ii 成人：収縮期血圧が90mmHg未満  
# 喉頭症状：吸気性喘鳴、変声、嚥下痛など。

# 食物アレルギー 原因食品



1位	鶏卵
2位	牛乳
3位	木の実類
4位	小麦
5位	落花生
6位	魚卵
7位	果実類
8位	甲殻類
9位	魚類
10位	大豆
11位	そば
12位	その他

木の実類	クルミ	7.6
	カシューナッツ	2.9
	マカダミア	0.7

# 食物アレルギーと診断するには？ ①

- 特定の食物により症状が誘発される。
- 症状の誘発が、特異的IgE抗体などの免疫学的機序を介する可能性がある。

- 特定の食物により症状が誘発される。  
問診が重要です。

ただし、検査だけでは  
診断できません

- 症状に免疫が関わっていることが証明できる。  
アレルギー特異的IgE抗体検査、プリックテストなどがあります。

症状誘発のリスクが  
あるため、病院で実施

- 問診などで原因となる食品が同定できない場合などは食物経口負荷試験で実際に症状が現れるかを検証する。

# 食物アレルギー

## ■ 注意点①

---

- ✓まだ食物経口負荷試験を行うことができない状況やIgE抗体価が著明な高値の場合には、検査だけを根拠に診断する場合もあるが、一般的にはIgE抗体等検査結果陽性という結果だけで食物アレルギーを正しく診断することはできない。
- ✓年齢が進んでも除去品目数が多く、「症状の既往」や「食物経口負荷試験陽性」という診断根拠がなく、「IgE抗体等検査結果陽性」だけが根拠の場合には、保護者と面談し状況を確認することも必要。

# 食物アレルギー

## 注意点②

---

- ✓ 保育所で “初めて食べる” ことを避ける
- ✓ アレルギー食対応の単純化、すなわち “完全除去” が “解除” で行うべき
- ✓ 耐性化の確認（病院で行う食物経口負荷試験など）がしばらく行われていなければ、既に食べられるようになってきている可能性も考えられるため、かかりつけ医への相談を検討。

# 食物アレルギー

## ■ 注意点③

### 誤食の発生要因と対応について

保育所における子どもの誤食は、食事だけでなく、遊びの場面においても発生するので、職員全体で発生要因を認識し、誤食リスクを減らすことが重要です。

#### 誤食の主な発生要因

- ① 人的エラー（いわゆる配膳ミス（誤配）原材料の見落とし、伝達漏れなど）
- ② ①を誘発する原因として、煩雑で細分化された食物除去の対応
- ③ 保育所に在籍する子どもが幼少のために自己管理できないこと など

# 食物アレルギー

## 注意点③

### 誤食の主な発生要因

- ① 人的エラー（いわゆる配膳ミス（誤配）原材料の見落とし、伝達漏れなど）
- ② ①を誘発する原因として、煩雑で細分化された食物除去の対応
- ③ 保育所に在籍する子どもが幼少のために自己管理できないこと など

### ○人的エラーの対策

- ・ 食事内容を記載した配膳カードを作成し、食物アレルギーを有する子どもの調理、配膳、食事の提供までの間に2重、3重のチェック体制をとる
- ・ 食物アレルギーを有する子どもの食器の色などを変えて注意喚起する など

### ○できるだけ単純化された対応を行うことが基本

煩雑で細分化されすぎた食物除去の対応は誤食の誘因となるため、安全な保育所生活を送る観点から、できるだけ単純化された対応（完全除去か解除）を行うことを基本とする。

### ○安全確保に必要な人員の配置・管理が必要

食物アレルギーを有する子どもへの食事提供の際には、誤配・誤食が起こらないよう、安全確保に必要な人員を配置し、管理を行うことが必要。

# アレルギー症状の治療

## ●症状が軽い時（軽症～中等症）：症状に合わせた治療

### 皮膚症状



- ・抗ヒスタミン薬の内服

### 呼吸器症状



- ・気管支拡張薬の吸入
- ・（医療機関では）必要により酸素吸入

### 消化器症状



- ・（医療機関では）経口摂取が困難な場合は補液

## ●症状が重症のときや中等症でも症状の進行が急激なとき、アナフィラキシーの既往があるとき

家庭ではアドレナリン自己注射器による自己注射、医療機関ではアドレナリンの筋肉注射やステロイド薬の投与を行うこともあります。

# 食物アレルギー

## 緊急時に備え処方薬

くすりの種類	効果	効果が現れるまでの時間
① 抗ヒスタミン薬	皮膚のかゆみやじんま疹を和らげる	30分～1時間
② 気管支拡張薬	気管支を広げて、咳やぜん鳴を和らげる	内服 30分以上 吸入 速やか
③ ステロイド薬	ゆっくり効果が出てくる、さらに数時間後に現れる症状を予防する	4～6時間
④ エピペン®	アナフィラキシーのすべての症状を和らげる	速やか

# 吸入補助具 (スプレーサー)

エアロチャンパープラス



PARI ボアテックス



オプティチャンバーダイヤモンド



(資料:「小児気管支喘息治療・管理ガイドライン2020」協和企画)

# 吸入方法

## マスクタイプ



うまく息を止めることができない子どもは、マスクタイプを使用しましょう。

## 3 薬を吸う。

マスクを口にあて、ゆっくりと息をすい込む。5呼吸くらいで Spacer 中の薬を吸い込む。



## 1 吸入器を付ける。

吸入器をよく振ってからキャップを外しSpacerに取り付ける。



- 吸入器を逆さに付けない。
- Spacerをこすったりしない。

## 2 薬を出す。

吸入器、Spacer、マスクの向きを合わせてセットし、ポンベの底を1回押す。



- 1プッシュごとの吸入を行っているか。

## 4 息をはき出す。

Spacer内の薬を吸い込んだら、息をはき出す。



# アドレナリン自己注射薬を使用すべき症状

## 消化器 の症状



繰り返し吐き続ける



持続する強い（がまんできない）腹痛

## 呼吸器 の症状



のどや胸が  
締め付けられる



犬が吠える  
ような咳



ゼーゼー  
する呼吸



声がかすれる



持続する  
強い咳込み



息がしにくい

## 全身 の症状



唇や爪が青白い



尿や便を漏らす



ぐったりしている



脈が触れにくい・  
不規則



意識がもうろうと  
している

# アドレナリン自己注射薬の使用法



ケースから取り出す。



グーで握る。  
オレンジの側から針が出る。



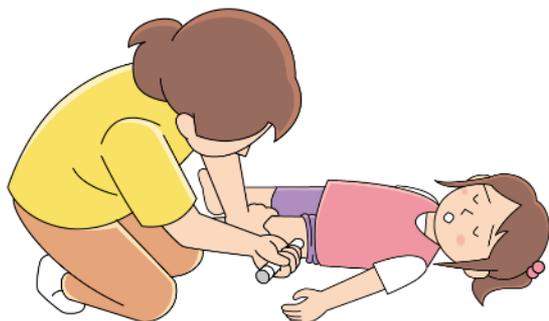
安全キャップをはずす。



ふとももの中心から少し外側に  
当てて強く押し、数秒間保持する。

使用法を忘れてしまったら自己注射薬本体のラベルを確認しましょう。

- 介助者なしでアドレナリン自己注射薬を使用する場合は、子どもが動かないようにしっかりと固定する必要があります。



膝関節をしっかりと  
押さえて、接種する  
場所がずれないように  
する。



介助者がいるときは、  
ふとももの付け  
根と膝をしっかりと  
押さえる。

# 食物アレルギー 緊急時の対応

安静を保つ体位

ぐったり、意識もうろうの場合



血圧が低下しているおそれがあるためあおむけで足を15～30cm高くする

吐き気、おう吐がある場合



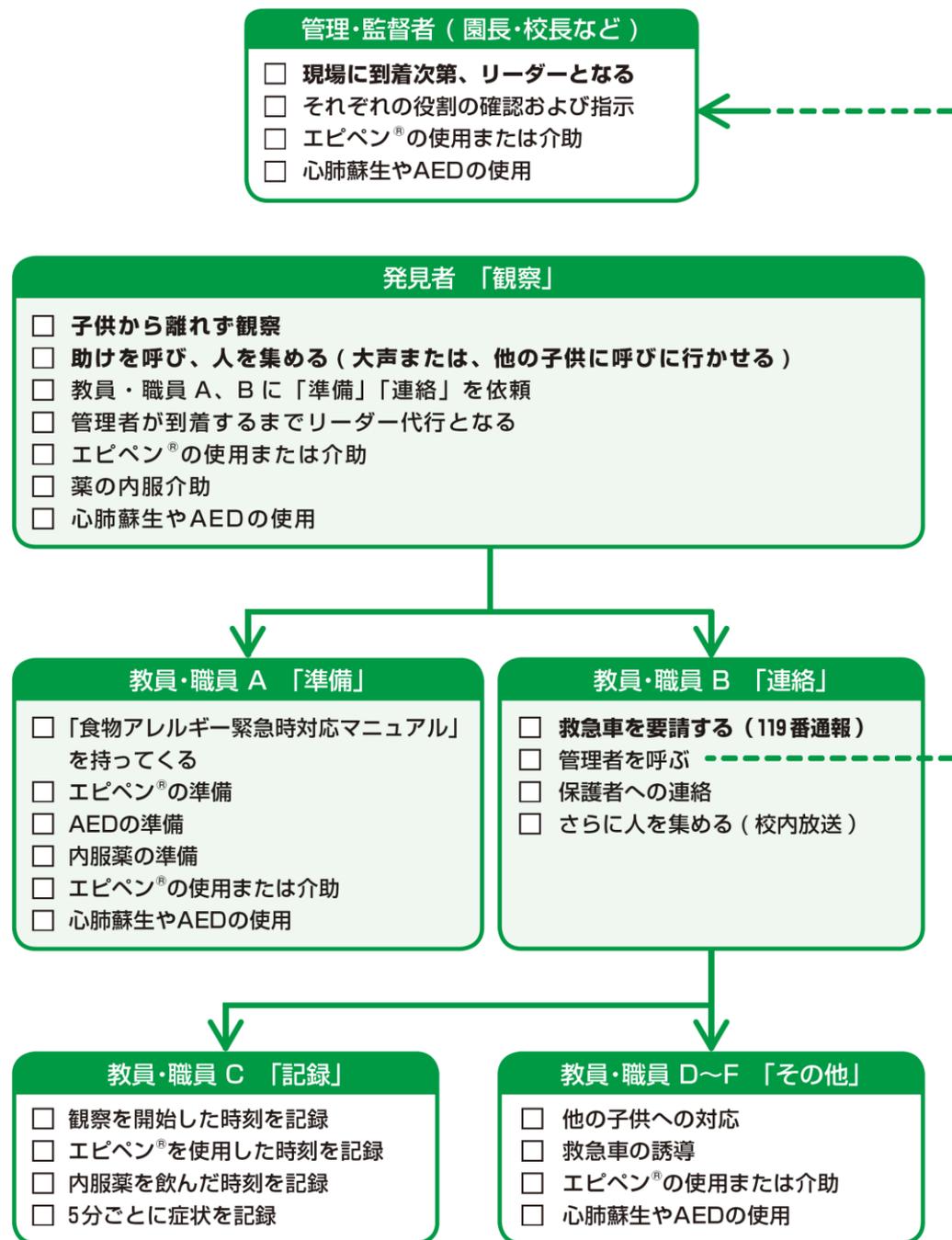
おう吐物による窒息を防ぐため、体と顔を横に向ける

呼吸が苦しくあおむけになれない場合



呼吸を楽にするため、上半身を少し起こし後ろに寄りかからせる

◆各々の役割分担を確認し事前にシミュレーションを行う



# 保育所での生活上の留意点

## A. 給食・離乳食

1. 管理不要
2. 管理必要(管理内容については、病型・治療のC. 欄及び下記C. E欄を参照)

## B. アレルギー用調整粉乳

1. 不要
2. 必要 下記該当ミルクに○、又は( )内に記入  
ミルフィーHP ・ ニューMA-1 ・ MA-mi ・ ペプディエット ・ エレメンタルフォーミュラ  
その他( )

## C. 除去食品においてより厳しい除去が必要なもの

病型・治療のC. 欄で除去の際に、より厳しい除去が必要となるものみに○をつける

※本欄に○がついた場合、該当する食品を使用した料理については、給食対応が困難となる場合があります

- |            |             |
|------------|-------------|
| 1. 鶏卵:     | 卵殻カルシウム     |
| 2. 牛乳・乳製品: | 乳糖          |
| 3. 小麦:     | 醤油・酢・麦茶     |
| 6. 大豆:     | 大豆油・醤油・味噌   |
| 7. ゴマ:     | ゴマ油         |
| 12. 魚類:    | かつおだし・いりこだし |
| 13. 肉類:    | エキス         |

## D. 食物・食材を扱う活動

1. 管理不要
2. 原因食材を教材とする活動の制限( )
3. 調理活動時の制限 ( )
4. その他 ( )

## E. 特記事項

(その他に特別な配慮や管理が必要な事項がある場合には、医師が保護者と相談のうえ記載。対応内容は保育所が保護者と相談のうえ決定)

# 食物アレルギー アレルギー用調整粉乳

## B. アレルギー用調整粉乳

1. 不要
2. 必要 下記該当ミルクに○、又は( )内に記入

**販売終了**

ミルフィーHP ・ ニューMA-1 ・ MA-mi ・ ペプディエット ・ エレメンタルフォーミュラ  
その他( )

分類	加水分解乳		アミノ酸乳	調整粉末大豆乳
商品名	ミルフィーHP	ニューMA-1	エレメンタルフォーミュラ	ボンラクトi
最大分子量	3500 Da	1000 Da	アミノ酸	

# 食物アレルギー

## ■ 厳しい除去が必要なもの

### C. 除去食品においてより厳しい除去が必要なもの

病型・治療のC. 欄で除去の際に、より厳しい除去が必要となるものみに○をつける

※本欄に○がついた場合、該当する食品を使用した料理については、給食対応が困難となる場合があります

- |            |             |
|------------|-------------|
| 1. 鶏卵:     | 卵殻カルシウム     |
| 2. 牛乳・乳製品: | 乳糖          |
| 3. 小麦:     | 醤油・酢・麦茶     |
| 6. 大豆:     | 大豆油・醤油・味噌   |
| 7. ゴマ:     | ゴマ油         |
| 12. 魚類:    | かつおだし・いりこだし |
| 13. 肉類:    | エキス         |

# アレルギーポータル

**アレルギーポータル**

アレルギーについて、  
正しい知識を身につけて疾患の  
治療、管理、予防をしましょう。

アレルギーに関する様々な情報を集めたポータルサイトです。  
アレルギーの症状や治療方法、相談できる専門医や  
災害時の対応方法の情報等が集約されています。

**アレルギーポータル**  
日本アレルギー学会・厚生労働省が共同で運営  
アレルギーに関する正しい情報を集約したサイト  
→本講演で使用したパンフやスライドも

研修・講習会・eラーニング

日々の診療に役立つ研修や講習会の情報をまとめています。

食物アレルギーによって  
起こる症状と治療について

食物アレルギーの症状とその治療法を学  
ぶ研修用スライドです。アナフィラキシー  
に対処するための動画も掲載されてい  
ます。

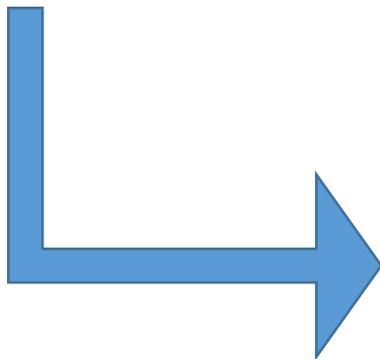
ダウンロードする

# アレルギーポータル 災害時の対応



## 災害時の対応

災害時のアレルギー疾患への対応方法をまとめています。  
患者さんの避難所での生活上の注意点や、  
災害派遣スタッフへの注意事項についての資料も含まれています。



## 災害におけるアレルギー疾患の対応

～アレルギー疾患をお持ちの方、災害に対応する行政の方、災害医療に従事する方へ～

令和3年度 厚生労働科学研究費補助金(免疫・アレルギー疾患政策研究事業)  
大規模災害時におけるアレルギー疾患患者の問題の把握とその解決に向けた研究 研究班

令和4年 3月 発行

# まとめ

---

- ◆ 保育所におけるアレルギー対応の基本原則に則り、関係者の共通理解の下で、組織的な対応ができるように平時より準備をしましょう。
- ◆ 生活管理指導表を適切に運用して、保護者や医療機関等との連携体制の構築をしましょう。
- ◆ 食物アレルギー対応においては、安全・安心の確保を優先しましょう。